



<実践事例9>

「いつでもどこでも誰にでも体を動かす楽しさを実感できる場を創り上げる」

札幌市立しらかば台小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

- ◆本校では、中休みや昼休みの時間にグラウンドに遊びに行く児童は一定数いるが、多くはない。遊び方にしても主に低学年は鬼遊び系、高学年はボール運動系である。体育館で遊ぶ児童も固定化している状態にある。そこで、「運動が得意ではない児童も、体を動かす楽しさを実感できるような取組を創り上げていく。」ことを目標にして、活動をスタートさせた。
- ◆小中一貫した教育のパートナー校である羊丘小学校でも、運動習慣の二極化が課題であることから、パートナー校同士の委員会が運動機会を創出する取組を共同で創り上げていく必要性を話し合い、パートナー校同士の委員会をつなぐクラスルームを立ち上げ、いつでも情報交換を行えるようにした。

2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

- ◆昨年度における「体力・運動能力、運動週間等調査」の結果から、本校では運動能力を高める必要性を感じた。その際、一日を通して運動機会が十分でない状況から、「いつでもどこでも運動の楽しさに触れる機会とは？」という視点で課題解決を目指した。その中で、数値による「記録の伸び」を実感できることが大事と考えた。そこで、普段の生活において、計測できる場所を設置して、児童一人ひとりの現状を把握できるようにした。また、体育の学習に生かせるようにコーナーを設け、児童が楽しみながら活動できる場を設置した。



3. 備品購入後の活動の様子



自動タイム計測器 1セット
140,800 円



長座体前屈測定器 1台
12,450 円



デジタル握力計 1台
19,580 円

◆いつでもタイムが計測できる走の運動に取り組める場の創出

※夏季はグラウンドに50m、冬季は体育館に20m のコースに自動タイム計測器を設置。



◆いつでも柔軟性や握力を測ることにチャレンジできる場の創出

*特別教室や体育館のステージに備品を設置し、いつでも誰でも使用できるようにした。



【例】体育館の場合(学習、休み時間どちらも利用可)

20mタイムコーナー(体育館横)	体力測定コーナー (ステージ)
フリーコーナー	

4. 課題の改善状況

◆活動の進め方や備品購入に時間が掛かってしまい、設置時期が遅くなってしまった。そのため、想定していたグラウンドにおけるタイム計測を行うことができなかった。また、備品を使った活動を体験している児童は全員ではない。しかし、備品を設置することにより、今まで運動を得意としていない児童も、興味・関心をもって活動することができた。短い距離によるタイム測定や、体の柔らかさ、そして握力を測ることを身近に行うことで、数値による自分の伸びを実感することができていた。このことから児童と教員が共に話し合い、体を動かすことの楽しさを実感するという点ではよい方向に向かっていると考える。

◆今後は、パートナー校における委員会活動の交流を計画的に行い、今まで以上に「いつでもどこでも誰にでも運動の楽しさを実感できる」取組を進めていきたい。

<実践事例 10>

「誰でも体を動かす楽しさを実感できる場を創り上げる」

札幌市立羊丘小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

- ◆休み時間にグラウンドや体育館に遊びに行く児童が少なく、固定化していることから、体力向上委員会が全校児童に「運動が好きかどうか」を調べるアンケートを実施した。全校児童で「運動が好き。」と回答した児童は79%であった。（「運動が好きではない。」と回答した児童の割合21%）そこで「運動が好きではない児童も、運動が好きになるような取組を創り上げていく。」ことを目標にして、委員会活動がスタートした。
- ◆小中一貫した教育のパートナー校であるしらかば台小学校・羊丘小学校のどちらの学校でも運動習慣の二極化が課題であることから、パートナー校同士の委員会が運動機会を創出する取組を共同で創り上げていく必要性を話し合い、パートナー校同士の委員会をつなぐクラスルームを立ち上げ、いつでも情報交換を行えるようにした。



2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

- ◆昨年度の「体力・運動能力、運動週間等調査」の結果を分析して、課題（向上させたい体力・運動能力）を見だし、「どのような時に運動の楽しさを感じることができるか？」という視点で課題を解決するための方法を話し合った。そして、「記録の伸び」や「競争に勝つ」ことが運動の楽しさを実感できることにつながると考え、三つの常設コーナーを設置することになった。また、コーナーを設置するだけではなく、それぞれの学校での取組（タイムや回数等の記録）を委員会掲示板等で交流することで、互いの頑張りを評価したり、新たな目標を生んだりすることができるようにした。その後、三つの常設コーナーを設置するのに必要な備品を購入するため、校長室で委員長・副委員長がプレゼンを行った。



3. 備品購入後の活動の様子



自動タイム計測器 1セット
140,800 円



なわとび練習台 1台
38,280 円

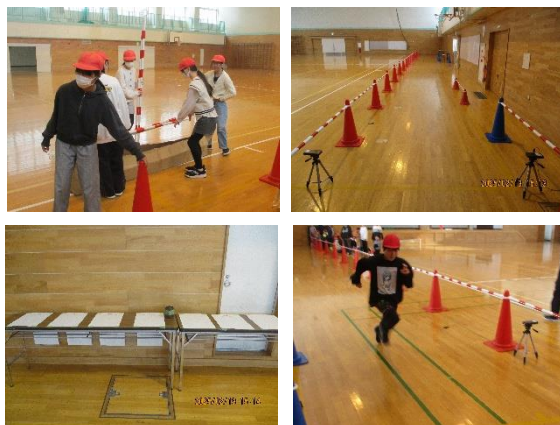


アクティブプレースポット 1セット
2,970 円

◆いつでもタイムが計測できる走の運動に取り組める場の創出

*夏季はグラウンドに 40m、冬季は体育館に 20m のコースを設営

*タイムは記録用紙に記入し、学年ごとの上位記録を掲示



◆いつでも高く跳ぶことにチャレンジできる跳の運動に取り組める場の創出

*体育館の壁に高さを表記したアクティブプレースポットを貼り付け

150cm から 10cm 刻みで、260cm までの高さを設定



◆なわとびによる運動機会の創出

*パートナー校で共通の「なわとびビンゴ」カードを活用

*なわとびが苦手な児童でも技の練習に取り組みやすいように、なわとび練習台を設置



4. 課題の改善状況

◆設置時期が遅くなってしまったため、グラウンドでタイム計測ができていないなど、全員が予定していた運動全てを体験できていないわけではないが、休み時間に体育館に遊びに来る児童は多くなってきている。2月に実施したアンケートでは、「運動することが好き。」と回答した児童の割合が 84%に増えた。課題でもあった高学年だけの結果を個別に見ると、92%以上が運動の楽しさを実感できていた。児童の「運動は好きではないが、その楽しさは実感できた。」という思いは確実に生まれてきている。

◆本年度は設置初年度ということもあり、新しい取組への関心が高く、多くの児童が参加していたことも考えられる。次年度以降は、本年度のモチベーションを維持しながら運動に親しみ、体力を向上させていくことができるような、改善状況拡大に向けた取組を考えていく必要がある。

また、本年度は、主に委員会同士がクラスルームのストリームを通しての交流を行ってきた。次年度以降は、パートナー校同士の交流がもっと拡大・活性化していくことができるような取組も検討していきたい。

<実践事例11>

「冬も元気に遊ぼう！仲間アッププロジェクト」

札幌市立大谷地東小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

6学年委員会の話合い①「全校児童が元気に楽しく学校生活を送るために」

6学年委員会の後期の活動として、「よりよい大谷地東小学校にするためにできること」の中から「体を動かす遊び」を取り上げ、話し合った。委員会児童の話から、夏は元気に外遊びをする機会が多い半面、冬は限られた児童しか外で遊ばないことや、室内で体を動かす場所は体育館に限られていることが明確になった。そのため、交友関係も夏に比べて狭くなりがちであることが問題として挙げられた。

冬期間の遊びに関する課題

- ・チャレなわ（屋上での縄跳び活動）ができなくなる
- ・天候等により、外遊びが限定される
- ・室内で、限られた友達としか遊ばなくなる

2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

6学年委員会の話合い②「冬期間の遊び方」

そこで、「仲間アッププロジェクト」を立ち上げ、冬季間にもっと体を動かす遊びをするよう全校児童に働きかけることにした。冬期間の外遊びは吹雪や寒さ等の天候に左右されることが多いため、「グラウンド遊び」と「ワークスペース遊び」の両面からおすすめの遊びを提案していくことになった。全校児童にアンケートを取ったり、学級会で提案して意見をもらったりすることで、広い視野でおすすめする遊びを決めることができた。

冬期間の遊びは、下記の通りに決まった。波線の遊びは学校に用具がないため、購入することになった。

	グラウンド遊び	ワークスペース遊び
低学年	雪だるま作り、 <u>そりすべり</u>	大縄、ストップゲーム、グリコ、 <u>フラフープ</u>
中学年	雪合戦、雪中ストラックアウト	大縄、 <u>ボッチャ</u>
高学年	<u>雪中バレーボール</u>	<u>カーリング</u> 、 <u>モルック</u>

3. 備品購入後の活動の様子

6 学年委員会の話合い③「使い方やルールの周知」

遊び用に購入した備品は、以下の通りである。

	購入品	個数	値段(税抜)
1	プラスチック製そり	6	10,200 円
2	フラフープ (内径85)	20	26,400 円
3	ポッチャ (ボール・コートセット)	2	80,000 円
4	雪中バレー用ネット (スタンド付き)	1	19,219 円
5	モルック (ソフトタイプ)	1	13,400 円
6	室内カーリングセット	1	32,600 円

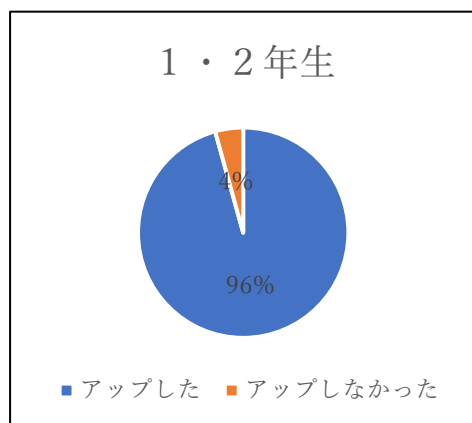


4. 課題の改善状況

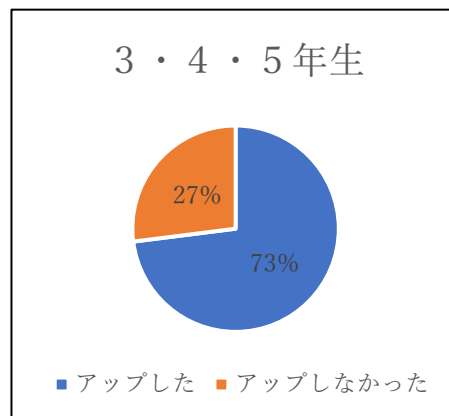
6 学年委員会の話合い④「アンケート調査」

6 学年委員会では、2 月下旬にプロジェクトの効果について調査を行った。すると、以下のように「冬でも体力アップした」と応えた児童が多い結果となった。

子どもが、学校の様子を客観的に見つめ、課題を見出すことで、「解決したい」という強い思いをもつことができた。また、立案したことが実現する楽しさや喜びが、次の主体的な行動に結び付いた。この「学校の課題を自らの力で解決する」という貴重な経験が、社会に対して主体的に関わろうとする子どもを育てることにつながった。



冬でも体力アップ
したと思いますか？



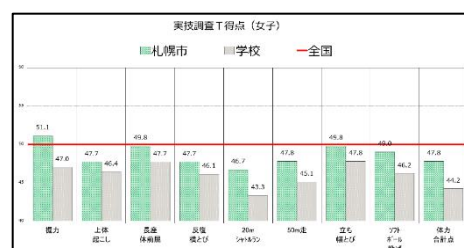
「福住スポーツイベント R 6 - 7」

札幌市立福住小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

毎年実施される全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を分析していくと、本校児童は下記のとおり全国及び本市のT得点（平均値）より低い傾向になっている。

第5・6学年の体育委員会及び保健委員会所属児童に令和5年度までの調査結果のグラフを提示すると、「ほとんどの種目で全国より平均以下の数値になっている」「20mシャトルランなど、走力に課題がある」といった気付きがあり、子どもの問題意識を引き出すことができた。

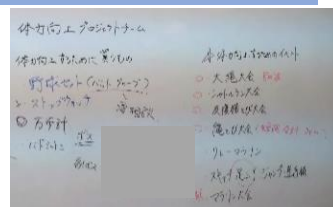


2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

子どもたちの気付きから、「どうすれば福住小の子どもたちの運動能力が向上するかな？」と投げ掛け、子どもたちの自治的活動「体力向上プロジェクトチーム」を立ち上げた。様々な競技記録会の開催や休み時間の使い方などのアイデアを出し合い、「福住小スポーツイベント R 6 - 7」の開催が決定した。

以上の話し合いをまとめ、イベントに必要な以下の用具を購入した。

- ①自動タイム測定器 個数1 計 128,000 円
- ②サッカーゴール 個数6 計 24,300 円
- ③自作ミニハードル 個数3 計 12,787 円
- ④万歩計 個数28 計 16,240 円

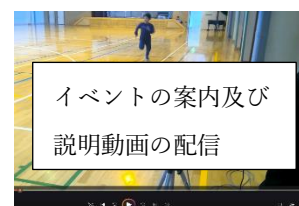


学校長に購入依頼



3. 備品購入後の活動の様子

2月から低・中・高学年・特別支援学級と4回に分けてスポーツイベントを開催することになった。全校児童に向けた案内のために説明動画を「体力向上プロジェクトチーム」のメンバーと教師とで、協力して作成にあたった。4回のイベントで約400名の児童が参加した。（全校児童約670名）

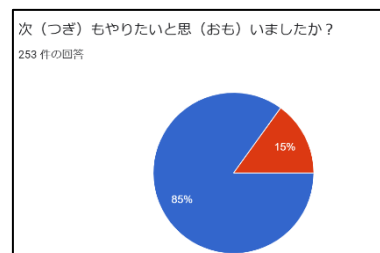
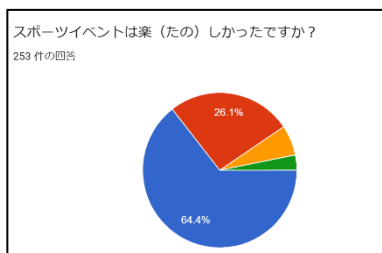
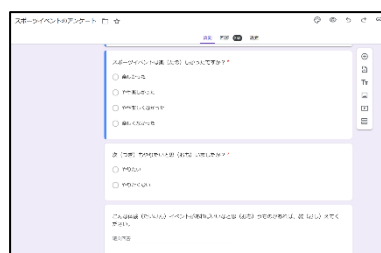


4. 課題の改善状況

スポーツイベントを開催後、参加した児童にアンケート調査を実施した。（253名回答）

○各設問の回答結果

- ・スポーツイベントは楽しかったですか？…肯定的な回答 90.5%
- ・次もやりたいと思いましたか？…肯定的な回答 85%



運動が苦手な児童でも参加できる万歩計を使った足踏み測定は継続的に実施でき、運動能力向上の礎である運動に親しもうとする態度の育成につながるが、子どもの姿から明らかになった。定期的にイベントを開催することで参加した児童自身が経年変化を感じることができると教員間で話題になった。

イベントに参加体験した児童からは上記のような肯定的な回答があった。次年度の体験イベントや体育委員会などが企画する上での「子どもの声」として大切に引き継ぎ自治的な活動としてつなげていきたい。

こんな体験（たいけん）イベントがあればいいと思（おも）うものがあれば、教（おし）えてください。
185 件の回答
ボールをどこまで投げれるか。
そりすべり
ボールの球速
外での運動をしたいから。
5月に50メートル走があってそれを何ヶ月後にはどれくらい早くなってるかをやりたい。
イカゲーム
大縄大会
立ち幅跳び
色々なスポーツを体験できるイベント

<実践事例 13>

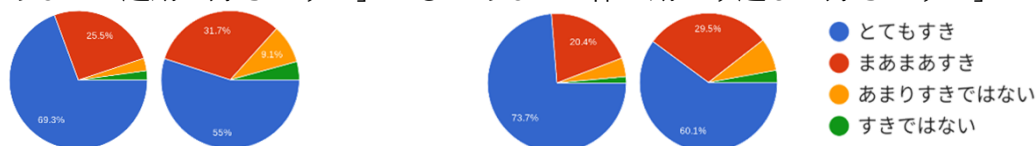
「やってみたいがつながる！川北すぽちゃれ」

札幌市立川北小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

- ・全校児童620名・教職員38名を対象に「すこやかな体をつくる運動・遊びに関するアンケート」を行い、遊びや運動に対する実態を把握した。

- ・「あなたは運動が好きですか」 ● 「あなたは体を動かす遊びは好きですか」



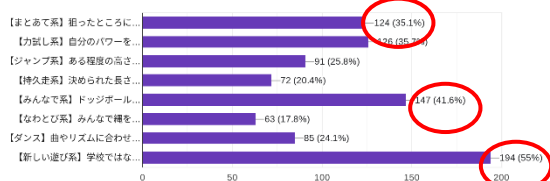
- 1・2年生と3～6年生に分け14の設問を実施した。その結果を分析したところ、
- ・本校の児童は体を動かすことについて「とても好き…55%」「まあまあ好き…31.7%」と答え、86.7%の児童が運動や体を動かすことを肯定的に捉えていることが分かった。
- ・また、「あまり好きではない・好きではない」と回答した児童を意識した設問では、あえて体を動かすことに対する「苦手」を問わず、「どんな運動だったらやってみたいと思える？」と前向きな問いを設定することで、子どもの「これならできそう・やってみたい」を引き出した。

2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

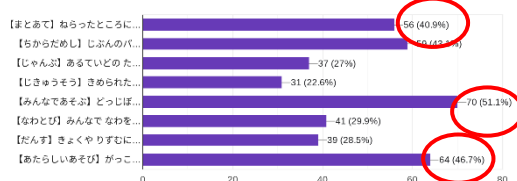
- ・どんな遊びだったら楽しめそうかの問いに対して、特に「走ること」「投げること」「踊ること」と答えた児童が多い事実に着目した。
- ・また、「学校ではなかなかできない運動遊びができれば…」という声に着目した。



10. 学校の中休みや昼休みで、どんな体を使う…ですか。(いくつチェックをつけてもよいです)
353件の回答



8. がっこうのなかやすみや、ひるやすみで、ど...おもいますか。(いくつえらんでもよいです。)
137件の回答



- ・運動委員会を中心に「走ること」を楽しむ「けいどろイベント」を企画し3回実施した。
- ・異学年交流「なかよしタイム」ではペア学年で「八の字跳び」で遊ぶことができた。

3. 備品購入後の活動の様子

・児童数に対して提供できる遊びの場が少ない本校。今年度はグラウンド・体育館改修工事の実施もあり、「空間がなくても遊べる」「持ち運び対応」が可能な用具を中心に購入。

購入品①【フットホッケーゴール・パック】

(ゴール2組で 23,760 円、パック 2,750 円×2個購入)

屋外・屋内選ばずゴールを置いてすぐ対決！
手軽さから「遊んでみたい」につなげた。



購入品②【スポンジフリスビー】

(5枚 14,300 円×5個購入)

握りやすい！投げやすい！痛くない！
シュート対決でも楽しく遊べた。



購入品③【ポッチャスタートセット】

(マット・ボール・ケースで 16,500 円)

「的に近づけて投げてみたい。」「走るのは疲れそう。」という子にも取り掛かりやすかった。



購入品④【モルックスタートセット】

(ケース・ピン・ボールで 16,500 円)

放つても転がしても遊べる。ターゲットの位置や得点を考えて楽しむことができた。



購入品⑤【低床紅白玉入れセット】

(ケース 21,450 円×2、カラー玉 100 個で 14,025 円)

「運動会だけの特別な運動が、毎日の遊びでできたら楽しそう。」という思いから購入。
人数・距離・時間を工夫して楽しさ UP！



購入品⑥【防水 Bluetooth スピーカー】

(1個 7,000 円×3 個購入)

持ち運びに優れ、Googlechrome と接続ができる。防水仕様で屋外活用も◎！音楽が流れると子どもたちが自然と集まり、踊りの振付を教え合い、楽しむことができた。



場所がなくても遊べる壁面コーナー『川北スポチャレ』を体育館に新設！（製作費0円）

製作品①【ビジョントレーニング】…数を順にタッチする速さを競う。

製作品②【スカイハイジャンパー】…垂直跳びでどんな高さまで届く？

製作品③【ミラクルスピードスター】…ここまで走ると〇〇の速さ！

製作品④【ウルトラロングランナー】…白石駅まで体育館〇周分！など

走り場所としての体育館にとどまらず、多角的に運動や遊びに触れる場所にすることができた。



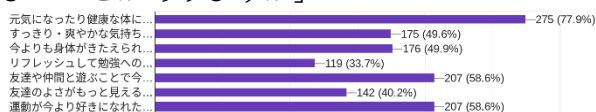
4. 課題の改善状況

・「運動や体を動かす遊びをすると、どんなよいことがありますか」



1～2年生の回答

たのしいしからだをつよくしたいから



3～6年生の回答

健康になるし、運動は体にいいから

・子どもたちは「元気になり健康になれる」「勉強により集中できる」という思いだけでなく、運動や体を動かす遊びを通して友達のよさをもっと見付けることもできると考えていることも分かった。肯定的な思いで運動に親しむ場づくりを今後も続けていきたい。

「新陵っ子パークをつくろう」

札幌市立新陵小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

本校では、児童の体力は、体育の授業や遊びを通じて、自ら運動に親しみ、持続的に体を動かす習慣を身につけた結果として向上するものと位置づけている。スポーツ庁のデータを活用し、スポーツの良さを伝えるとともに、「1日1回遊ぶこと」を目標に掲げている。休み時間、十分に遊びに親しめていない児童もいるのが現状である。そこで、子どもたちの声を聞き、抜本的に休み時間の遊びを見直すため、Google forms でグラウンド遊び、体育館遊びに対する意識調査を実施した。また、子どもたちが本当にやりたい遊びや、特別教室を開放した際にやってみたい遊びを調査した。

2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

Google forms を使用し、全校を対象に学校での遊びに関するアンケートを取った。「もっと体をうごかしたくなる遊びは？」という質問項目に対し、「トランポリン」、「バドミントン」、「テニス」、「大縄」、「フープ」、「ダンス」、「サッカー」という回答が多く寄せられた。

アンケート結果を受け、「健やかな体」の育成部で、教師が遊具の購入について協議した。「子どもの声を聴くこと」と「豊かなスポーツライフの実現」を軸に、予算を考慮しながら購入品を選定した。特に遊びを十分に楽しめていない児童の声を重視し必要な環境を整えた。

11月から活動を始めた今年度は、体育館遊びの見直しに加え、これまで活用されていなかった特別活動室と視聴覚室の休み時間の開放にも取り組んだ。

3. 備品購入後の活動の様子

① 視聴覚室の活用(ダンス・よさこい)

視聴覚室では、ダンスやよさこいを行えるようにした。主に低学年・中学年児童が多く来室し、学級担任がテレビにタブレット端末の動画を投影した。子どもたちは流行のダンスやよさこいの練習をしていた。

変換ケーブル【6,480 円】× 1
アダプタ L 型【1,540 円】× 1
本校ではアダプタを付けることで断線を防いでいます。



2 年生、高学年のよさこいに挑戦！



②特別活動室の活用(トランポリン・フープ)

特別活動室では、トランポリンやフープで遊べるようにした。

トランポリン(大)【21,863 円】× 2 トランポリン(中)【16,335 円】× 1
高く飛んだり、跳び方を工夫したりして遊んでいました。



フープ(大)【7,480 円】× 2 フープ(中)【5,500 円】× 1
回したり、転がしたり、跳んだり、手足同時に回したり…遊び方は無限大！

③体育館遊びの見直し

体育館では、「ドッジボールばかりでつまらない。」「自分のやりたい遊びがしたい。」という高学年の女子児童の回答が多かった。一昨年度までは、学年で1つの遊びをしていたが、昨年度は2つに増やし、今年度は子どもの声を聴き、ゾーニングする方向へ変更した。

バドミントンネット【15,312 円】× 4 ハンドテニスセット【4,488 円】× 4
軽くて組み立てが簡単。バドミントンだけではなく、ハンドテニスや体育で行ったバレーボールもできます。ネット型は運動が得意な子も苦手な子も気軽にできます。



ステージを使用したり、子どもの声によって遊び場を変更したりした。子どもたちは様々な遊びを楽しんでいた。



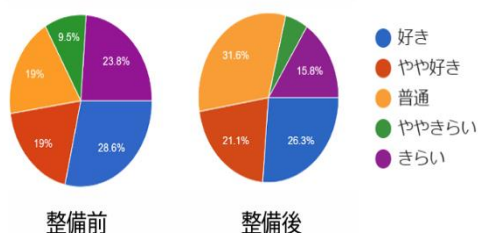
4. 課題の改善状況

成果と課題【豊かなスポーツライフの実現と多様化】

子どもたちの様子を見ると、環境整備前に運動に積極的ではなかった児童も、新たに自分なりの楽しみ方をしている様子が見られた。5年生女子児童で体育館遊びが「きれい」と答えた児童が2名から0名となった。6年女子も「きれい」「ややきれい」の回答が減った。体育学習で学んだことを休み時間に試す児童もあり、体育学習にも良い影響を与えている。今後も体育科と休み時間の一体化させ、豊かなスポーツライフの実現を目指していきたい。

一方で学年や男女により遊び需要が異なった。低学年・中学年の児童は、積極的に流行のダンスや、よさこいを大人数で積極的に取り組んでいたが、高学年児童は、「見られるのが恥ずかしい。」という理由から、視聴覚室で、積極的に遊ぶ児童が少なかった。また、友達と遊びたい内容が異なることで、遊びに参加しづらい児童もいた。遊びを通して「運動」とつながるだけではなく、「仲間」とのつながりを深めるためにも、教師の関わりが重要であることが再確認できた。

6年女子体育館遊び



「自立活動を基盤とした教育課程の中で 感覚統合の視点を取り入れた学習のために」

札幌市立平岸高台小学校・平岸中学校のぞみ分校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

楽しい運動経験を通して様々な感覚（視覚、前庭覚、固有覚、触覚、聴覚）を受け取り、整理する機能を育てていく。

◎固有覚・・・筋肉の張り、関節の曲がり具合を感じる（目ではなく、「感覚」）体験

◎前庭覚・・・体のバランス感覚、鈍感さ、敏感さ、→揺れや回転、重力や加速を感じる遊びを楽しく体験

◎触覚・・・皮膚感覚→外遊びの中で、土、泥、砂、金属といったものに直接触れる体験

◎外での運動によるセロトニンの分泌促進→イライラ抑制、幸せな気分を感じやすくなる

のぞみ分校小学部における自立活動を基盤とした教育課程の構築と実践 ～愛着障害の理解に基づく学習支援～

村田 和華子 及能 哲平 竹内 勇(札幌市立平岸高台小学校のぞみ分校) 前野 紀恵子(子ども支援アドバイザー)

1. のぞみ分校とは

札幌市立平岸高台小学校・平岸中学校のぞみ分校

3. 愛着障害の理解に基づく学習支援の検討

子どもの心と体を育てるために (Tomoda, 2012)

4. 「前野: 支援モデル」を基にした教育課程～自立活動を核にした取組～

<自立活動の工夫>

- 1時間目の自立活動
ウォーキング、ボール運動、筋トレ、外気浴、感覚運動遊び、主体的活動
→感覚の統合・身体機能・心身の安定
→心身のコンディションを整える
- ゆとりの時間
リフレッシュタイム(中休み) ゆったりタイム
→心身共にリラックス
- 多感覚学習
調理学習(週1)・まるせんタイム
→達成感・生活経験・マルチセンサー
- 校外学習
公園へ行く
→感覚の統合・身体機能・心身の安定
買い物学習
→対人関係やコミュニケーションの限定的展開・生活経験
- 生活単元的展開の工夫
行事や季節のイベント、事前・事後学習
→活動の取組や集団参加への見直し

<環境の工夫>

○環境構成→感覚の統合や心身の安定

プレイルーム リラックスルーム

<学習支援の工夫>

○個別指導を基本とした学習

国算社理外音	図体家総道特
マンツーマン	場は共有
	目標は個別

→個別に大丈夫な人と関わる時間の確保
→アセスメントによる適切な課題の設定
→自分に合ったペースで進める特別感の設定

○学習経験の積み重ねと学力の定着を視野に入れた学習内容

得意や好きなことからの題材設定

興味関心に合わせた教材

学年の教科書の活用も!

ドリルは短期集中
ちょいムズ問題

→満足感(やった!)と達成感(できた!)を重視

2. 子どもたちの行動特性

家庭・心理的に複雑な背景
学習の空白期間
発達障害の診断類似する特性
謝れない・虚言
はだし・寝そべる
物を口に入れる・異食
高所に登る・危険行動
アンビバレントな行動
天邪鬼
様々な刺激や陰性感情によって反応性
愛着障害様の行動が現れやすい
床への接触
人との接触
モノとの関係
姿勢/しぐさ
口の問題
危険な行動

愛着障害のうつ
「外に現れる行動のうつ」(Tomoda, 2012)

集団や45分間の教科学習をベースにした教育活動は難しい

5. 今後の課題

施設との共通理解 中学部との連携・接続

2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

のぞみ分校には屋外遊具が一切ありません。施設で過ごす子どもたちは、携帯型ゲームやカードゲームなど、屋内で活動する時間をどのように過ごすかを考えて生活しています。札幌市の小学生として、できるだけ他の子どもたちと同じように体を動かす機会を自ら選べる環境を用意することが必要だと思い、この環境整備推進事業に応募させていただきました。

まずは子どもたちに、「好きな公園の遊具」と題してアンケートを実施しました。その結果、【滑り台】、【ブランコ】、【鉄棒】、【アスレチック】、【シーソー】という声が上がりました。その中で、感覚統合の視点、外での活動、安全面、予算、設置可能な有無から判断してドーム型ジャングルジムと鉄棒を購入することに決定しました。

3. 備品購入後の活動の様子

小学部と中学部があり、小中で連携をとりやすい学校でもあります。中学部の生徒たちの授業の作業学習に組み込ませてもらい、中学部教師の指導のもと、設置しました。

購入備品と金額

ドーム型ジャングルジム	91,850	2連鉄棒	87,670
クライミングドーム固定用ペグ	3,244	設置のためのパール	1,848
冬囲い用シート	5,148	設置のためのセメント	6,903
		逆上がり用鉄棒ベルト	2,200



4. 課題の改善状況

残念ながら、注文から発送、商品が届くまでの期間に積雪があり、子どもたちの遊ぶ様子を記録写真として残すことができませんでした。子どもたちは楽しみに雪解けを待っています。可能であれば次年度以降も少しずつ遊具が増えて、一般的な小学校のようにグラウンドに子どもたちの笑い声が響き渡ることを願っています。



令和6年度
学校における運動機会の
充実を図る環境整備進事業
実践事例集

札幌市教育委員会 令和7年6月